

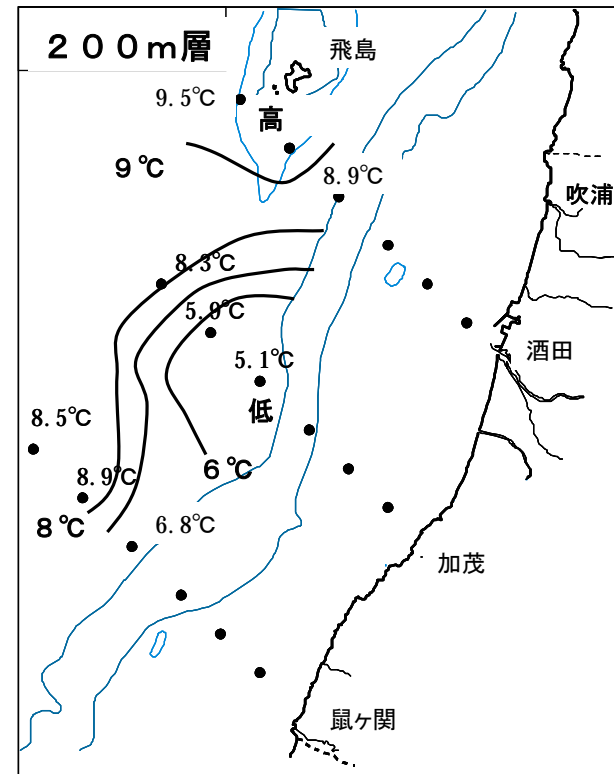
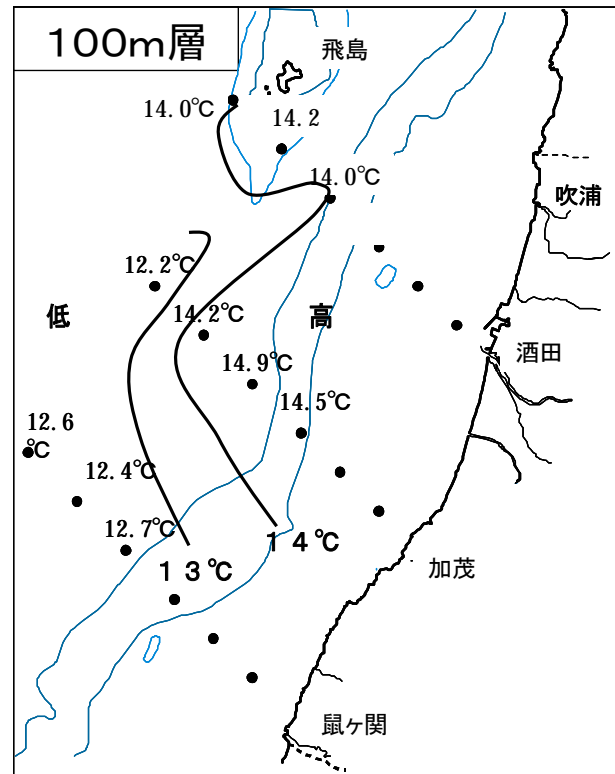
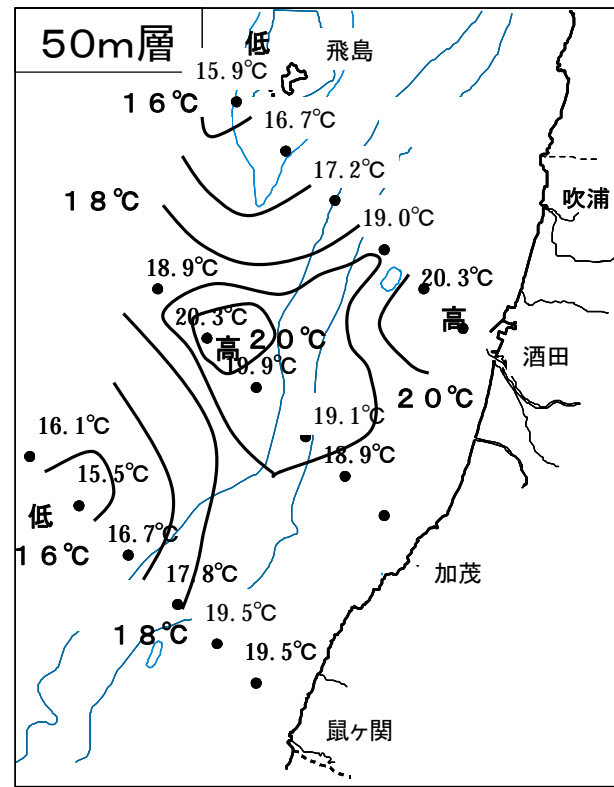
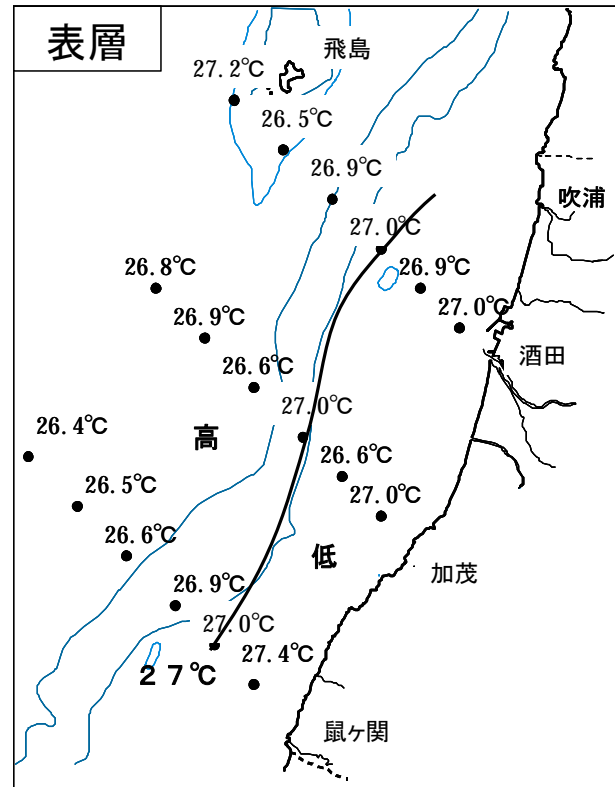
漁海況情報

第471号(平成23年9月8日発行)

発行:山形県水産試験場 〒997-1204 鶴岡市加茂字大崩594
TEL0235(33)3150 FAX0235(33)0379
ホームページ: <http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/147010/>

観測日:8月26日(最上丸)および8月29日(月峯)

表層と200m層以深が「やや高め」、50m層が「やや低め」、100m層が「平年並み」になっています。



地先平均水温(8月)

単位:℃

場所	水温	前年差	平年差	評価
水産試験場(鶴岡市加茂港内)	26.9	-1.4	+0.9	やや高い
栽培漁業センター(鶴岡市三瀬地先)	26.5	-1.5	+0.9	やや高い

各層別の平均水温

単位:℃

	表層	50m層	100m層	150m層	200m層	300m層
本年	26.8	18.1	13.6	10.5	7.8	1.9
前年差	-3.0	-1.0	+0.7	+0.5	-0.8	-0.9
平年差	+1.3	-1.2	-0.3	+0.2	+1.4	+0.3
評価	やや高い	やや低い	平年並み	平年並み	やや高い	やや高い
(前月評価)	(かなり高い)	(やや低い)	(平年並み)	(平年並み)	(やや高い)	(はなはだ高い)

評価の表現:”平年並み”は約2年に1回,”やや”は約4年に1回,”かなり”は約10年に1回,”はなはだ”は約20年以上に1回の出現確率を表しています。

各種漁業情報

1 大型クラゲ情報

平成23年9月1日に独立行政法人水産総合研究センターが「大型クラゲの出現について(第3報)」を発表しました。内容は以下のとおりです。

①大型クラゲの出現状況

日本-中国間を航行する国際フェリーを使った目視調査により、8月20~23日の間、中国・青島沖の黄海中央海域(北緯35~36度、東経120~125度)において、少数の大型クラゲの出現を確認しました。また、8月17日と8月20~21日には黄海及び東シナ海北部海域でごく少数の大型クラゲが目視されました。さらに、8月23日には日本-韓国間を航行する国際フェリーの目視調査でも、今年度初めて対馬海峡東水道で大型クラゲの出現を確認しました。

一方、対馬近海~山陰西部の日本海海域において、日本海沿岸関係県の調査船および民間用船による大型クラゲ分布調査を実施していますが、現在までのところ、大型クラゲは出現していません。

以上のように、現時点での大型クラゲの出現量は、黄海および東シナ海では出現量の少なかった平成20年度と同程度であり、対馬海峡を通過した大型クラゲも昨年同様非常に少ない状況にあります。

②大型クラゲ出現予測について(9月下旬)

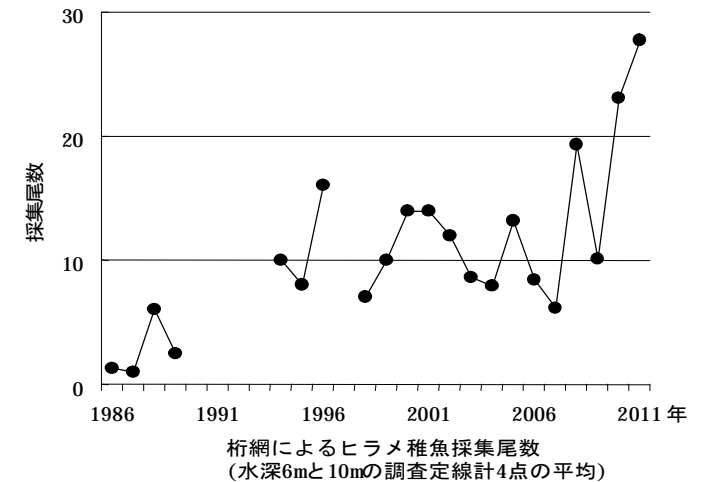
8月中旬の黄海中央海域における国際フェリー目視調査の結果や気象庁の海洋大循環モデルの流況結果から、大型クラゲの出現予測を行いました。その結果、黄海中央部の大型クラゲ群は、今後引き続き黄海内部に滞留することから、日本周辺水域に大量出現する可能性は低いと思われる。

また、日本海海況予測システム(JADE)を用いて、日本海における大型クラゲの出現予測を実施しました。その結果、日本海に流入した大型クラゲは、大部分が沖合域に運ばれることから、沿岸域では能登半島以西において散発的に出現する程度で、大量出現する可能性も低いと思われる。

2 最上丸のヒラメ稚魚調査速報

8月下旬に十里塚、浜中の調査定線でヒラメ稚魚調査を行い、多数のヒラメ稚魚が採捕されました。

6mと10mの調査定線(合計4定線)における1定線あたりの平均採捕尾数は38.5尾で、これまでの調査結果を踏まえて補正した結果、経年変化は右図のとおりで、近年にない稚魚の発生量となりました。



8月の漁況

・延べ操業隻数は、3,959隻で前年比89%でした。
 ・総漁獲量は、291トンで前年比57%でした。これは、船凍いか釣漁業の漁場が北海道太平洋北部(浦河～釧路～花咲)になり本県への水揚げが無かったためです。
 ・採貝藻漁業の漁獲量は107トンで前年比83%でした。アワビ、サザエ、イギスは前年を上回りましたが、モズクは下回りました。
 イワガキは県南部地域での河川水による濁りの影響などがあり前年比77%と前年を下回りました。なお、5～8月のイワガキ漁獲量は212トン前年比81%で前年を下回りました。
 ・定置網漁業の漁獲量は8.5トンで前年比138%でした。アジ、ウマヅラは前年を上回りました。
 ・はえなわ漁業の漁獲量は9トンで前年比65%でした。タイ類、ブリ類、マグロ(メジ含む)は前年を下回り、サワラは来遊がほとんど見られず前年を大きく下回りました。
 ・その他の漁業では、さし網漁業のネジリ(ウシノシタ類)、サザエ、一本釣漁業のブリ類は前年を上回りましたが、いか一本釣漁業のスルメイカ、さし網漁業のキス、一本釣漁業のサワラ、ばいかご漁業のバイ類は下回りました。

全漁業支所別漁獲量

* 前年比は平成18～22年までの平均値と比較した値です。

単位: 隻、kg

支所	吹浦	飛鳥	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ業隻数	364	597	588	365	431	503	290	821	3,959	89%	89%
漁獲量	26,685	35,227	50,026	77,832	24,205	29,044	9,580	38,475	291,075	55%	57%
前年比	83%	181%	18%	80%	127%	92%	70%	88%	55%		
前年比	69%	114%	21%	96%	82%	99%	90%	84%	57%		

採貝藻漁業

単位: 隻、kg

支所	吹浦	飛鳥	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	234	355	143	165	277	262	145	450	2,031	77%	94%
イワガキ	20,924		15,531	12,888	9,885	9,920	4,337	12,459	85,944	76%	77%
アワビ	292		1	8	112	199	140	47	799	176%	128%
サザエ	17	7,673	50	397	1,017	744	1,461	1,642	13,001	75%	128%
イガイ	4		361	16	859	1,039	21	707	3,007	94%	122%
イギス		25		97	303	7	48	579	1,059	59%	116%
モズク		284			3				287	24%	20%
その他	75	6	238	526	1,290	238	24	92	2,489		
計	21,312	7,988	16,181	13,932	13,469	12,147	6,031	15,526	106,586	77%	83%
前年比	76%	68%	102%	74%	112%	82%	59%	58%	77%		
前年比	61%	109%	127%	78%	88%	104%	80%	73%	83%		

その他の漁業

単位: 隻、kg

漁業種類	いか一本釣漁業	さし網漁業			あまだい	ごち網	一本釣漁業		ばいかご
		ネジリ(ウシノシタ)	キス	サザエ	さし網漁業	漁業	ブリ類	サワラ	漁業
延べ操業隻数	740	740	118	166	281	21			
対象魚種	スルメイカ	ネジリ(ウシノシタ)	キス	サザエ	アマダイ	タイ類	ブリ類	サワラ	バイ類
漁獲量(kg)	26,055	1,822	1,850	8,299	4,374	25,511	5,824	39	10,884
前年比	271%	165%	151%	168%	94%	97%	1099%	1%	116%
前年比	68%	127%	67%	150%	93%	112%	187%	2%	79%

定置網漁業

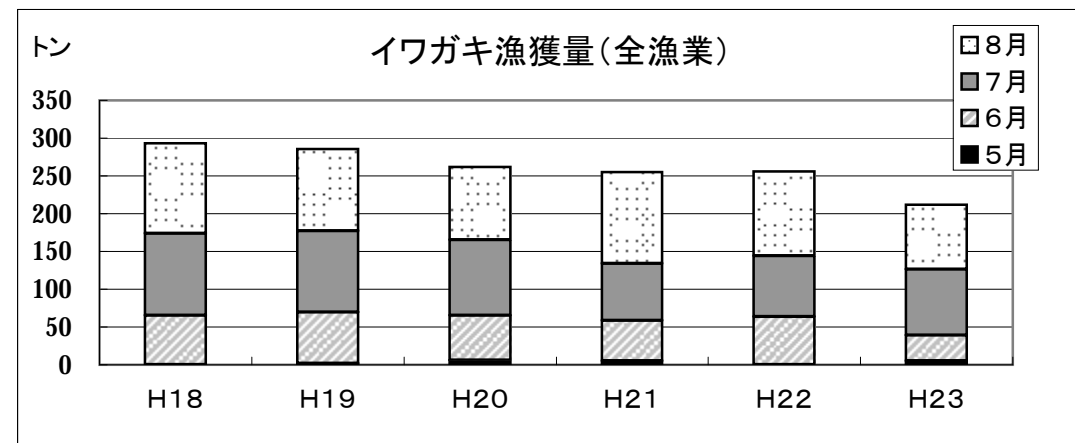
単位: 隻、kg

支所	加茂	由良	豊浦	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	2	21	19	3	45	129%	115%
ブリ類		2,377	281	7	2,665	550%	113%
アジ	23	2,421	732	537	3,713	1316%	155%
ウマヅラ		38	64	187	289	472%	296%
その他	46	1,379	372	85	1,882		
計	69	6,215	1,449	816	8,549	371%	138%
前年比	690%	345%	514%	394%	371%		
前年比	103%	146%	104%	315%	142%		

はえなわ漁業

単位: 隻、kg

支所	飛鳥	酒田	豊浦	温海	念珠関	その他	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	23	22	26	101	114	18	304	94%	68%
タイ類		110	220	786	468	93	1,677	49%	33%
ブリ類		185		143	19	14	361	97%	57%
マグロ(メジ含む)	287	532	46	423	299	14	1,601	69%	42%
サワラ		3	8	6	5	1	23	2%	3%
その他	1,044	612	196	1,600	1,767	254	5,473		
計	1,331	1,442	470	2,958	2,558	376	9,135	82%	65%
前年比	54%	102%	36%	97%	164%	27%	81%		
前年比	36%	106%	21%	115%	78%	41%	65%		



最上丸の調査予定(9月上旬～10月上旬)

上架整備、海洋観測、重要魚種の加入量調査

- ・ 上架整備を行います。
- ・ 海洋観測を行います。
- ・ カレイ類・ヒラメの資源動向を明らかにするため、稚魚の生息状況を調査します。



みなさま、調査へのご協力よろしくお願いいたします。